



いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書

2014年版

- ◆2013年度いわて生協の事業と活動
- ◆2013年-2014年環境活動報告書



風力発電共同事業に基本合意(2013年12月)



共同購入盛岡南センターに
電気自動車を4台導入(2014年2月)



省エネ型店舗「ヘルフ八幡平」オープン
(2013年11月)



いわて生活協同組合

Contents

「がんばろう！岩手」被災地支援活動 3・4

- 事業を通じた支援
- 組合員によるボランティア活動



いわて生協の事業の到達点 13～16

- 店舗
- 共同購入
- 共済
- 介護・福祉
- 葬祭「セリオ」
- 住まいと暮らしのサービス



地産地消・産直運動 2013年度の到達点 5～8

- 商品の利用普及による復興支援
- 顔とくらしの見える産直運動



2013年—2014年環境活動報告書 17～24

- 環境方針
- 地球温暖化防止対策
- おもな取り組みと成果
- リサイクルと再資源化
- 環境活動のあゆみ



組合員による多彩な活動 9～12

- くらしを守る運動
- 助け合いの活動
- 子育て協同
- 平和を守る運動



いわて生協の概況 25

- 決算概況
- 組織の状況
- 事業所一覧



2020年ビジョン～私たちのありたい姿～

「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」



1. 私たちは、社会の大きな変化の中で、ふだんの暮らしにいっそう役立つ事業を協同の力で広げます。
2. 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人々が支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく！元気に！楽しく！感動する活動」をすすめます。
3. 私たちは、地域で信頼され、評価される元気な組織をつくり、健全経営を維持発展させます。

震災からの復興と、誰もが安心して暮らせる社会をめざして、力を合わせてまいりましょう



いわて生活協同組合
理事長 飯塚明彦

未曾有の大災害となった東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から早3年が経過しました。いわて生協では、2013年度も、3年目のこれからこそが「支援の本番」と、事業・活動の両面で被災者に寄り添った支援活動を続けてまいりました。

この3年間で、移動店舗や買い物バスなどによる買い物支援はのべ16万人が利用し、被災した生産者・メーカーの商品や手作り品の供給支援は7億1千万円となり、被災地のくらしや生業の再建に貢献することができました。また、支援活動にはのべ1万8千人のボランティアが協力し、ふれあいサロンなどにはのべ7万3千人が参加し、くらしや心の支えにもなっています。私たちがこうした支援活動を続けることができたのは、全国の生協のみなさまからの変わらぬご支援があったからこそであり、「協同することの力の大きさ、すばらしさ」を実感し続けた3年間でした。この3年間のみなさまからの多大なるご支援に対し、組合員を代表し深く感謝申し上げます。

被災地では、復興の槌音が響いてきてはいますが、多くの被災地はいまだに更地のままであり、岩手県内では3万4千人が仮設住宅で不便なくらしを続けています。特に、「住まいの再建」がすすまず、先行きへの不安が広がり、人口流出の要因にもなっています。また、この間仮設住宅でのくらしを支えてきた支援員やNPOの活動が縮小し、支援が減ることや震災が風化していくことへの不安が広がっています。

こうした状況もあり、事業・活動の両面で支援を続けてきたいわて生協への期待の聲が高まっています。いわて生協では、1日も早い「住まいの再建」など、復興の推進を求める運動をすすめ、これからも「被災地の生協」として息の長い支援活動を続けてまいります。

今、日本の姿が大きく変わろうとしています。17年ぶりの消費税増税をはじめ社会保障のますますの後退、TPPへの参加、原発の再稼働、秘密保護法や国民投票法の策定といった「戦争ができる国」にむけた動きなど、国の有り様を大きく変えてしまうさまざまな動きが顕在化し、平和と安全・安心が根底から脅かされ、私たちの日々のくらしもいっそう大変な状況に向かうと予測されます。

震災からの復興はもちろんのこと、これらの問題についても積極的に取り組み、人が大切にされ、安心して暮らせる社会をつくるために、その役割を果たしてまいります。

みなさまには、いっそうのご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

移動店舗「にこちゃん号」4台目の運行をけせん地域でスタート

「私たちの地域にも来てほしい」という強い要望を受けて、移動店舗「にこちゃん号」4台目の運行を2013年5月からけせん地域でスタートしました。2012年度に導入した3台と合わせ、宮古・釜石・大槌・けせん地域の仮設団地58か所4千戸を1日おきに訪問しています。2013年度は1日当たり310人、のべ9万6千人に、2年間では13万5千人にご利用いただきました。



「買い物は家から出る機会にもなり、知り合いもできる」と喜ばれています。

「復興するまで」続ける 個配「復興支援サービス」を開始

カタログを見て買い物ができる共同購入（個人宅配）も、被災地のくらしを支える事業です。個人宅配の配達手数料を優遇する「被災者支援サービス」の期間を「復興するまで」とし、2013年9月から新たに「復興支援サービス」として開始しました。これにより沿岸3センターを中心に利用者が863人増え、サービス登録者は5,471人となりました。



「自宅まで商品が届く個人宅配は便利」と利用者が増えています。

宮古市・山田町で無料お買い物バス運行

買い物支援の一つとして、2012年7月から「無料お買い物バス」を日本生協連からの支援金で運行。お買い物物が不便な宮古市と山田町の仮設住宅と宮古市の生協店舗を結んでいます。2013年度はのべ7,600人、スタート時からはのべ1万2千人にご利用いただきました。



1日当たり約30人にご利用され、無料はありがたいと喜ばれています。

被災メーカー・生産者を支援

被災地の生業・仕事づくりを応援しようと、被災地の商品を積極的に取り扱いました。「産直真崎わかめ」など、被災メーカー・生産者の商品の利用普及（2013年度は3億7千万円、2年間では6億8千万円）や、「復興支援・地産地消フェスタ」の開催、マリンコープドラでの「復興商店」を継続しました。また共同購入では「復興応援・がんばろう東北」や「ふくしま応援ボックス」の企画などに取り組みました。



内陸で開催した「復興支援・地産地消フェスタ」には、沿岸地域から105のメーカー・生産者に出店していただきました。

「あったか衣料品即売会」を釜石地域で開催

「高齢の男性が衣料品の購入に不自由している」「生協で衣料品も販売できないか」と釜石コープリーダー会の中での話し合いから、2013年10月に移動販売を実施しました。釜石地域の仮設団地4か所をまわり、85人・15万7千円のご利用がありました。



「自分の好みで買っつのはやっぱり楽しい」と好評でした。

手作り品など販売で収入を支援

被災地の生業づくりにも貢献しようと、仮設住宅のグループや団体、福祉作業所の手作り品などの販売にも力を入れました。この3年間の販売支援は、10万2千点、2,700万円となりました。



マグネットはっと
大槌町「おぢゃっこながま堤ケ丘」

3年目のこれからこそが「支援の本番」として、2013年も被災地の要望にそった支援活動と震災を風化させない活動を、事業・活動の両面で継続しました。

コープ・ボランティアセンター 3年間で145企画に5,658人が参加

「自分も何か被災地の手助けをしたいけれど、一人ではどうしたらいいか…」という声にこたえて、2011年6月にいわて生協が「コープ・ボランティアセンター」を開設。2013年度も大槌町や陸前高田市で遺品探しや花壇づくり、「菜の花プロジェクト」への支援などを実施。内陸でも、お振る舞い料理の食材切り、手作りカードとお菓子のセット作業なども行いました。3年間で145企画にのべ5,658人のボランティアが参加しました。



バスボランティア100回目を迎えた2013年7月には、総勢100人（いわて生協のほか、大阪・奈良・石川の4生協からのボランティアも含む）で陸前高田市で記念の植樹も実施。陸前高田市の戸羽太市長にもご参加いただきました。

「ふれあいサロン」は毎月54回開催

「少しでも“ほっ”とする時間を持ってほしい」と、2011年6月、陸前高田市の避難所からスタートした「ふれあいサロン」。現在は、沿岸被災地6市町村と内陸2市で64仮設・地域を対象に、毎月54回開催。2013年9月からは、関東甲信越地域の18医療生協からのボランティア参加もいただいています。この3年間では、のべ1,203回開催し、のべ1万2,132人が参加、ボランティア参加はのべ5,717人でした。



宮古市宮町あゆみ公園仮設団地でのふれあいサロン。「懐メロかるた」でみんな笑顔に。

「食」への支援として、「3行レシピ集」発行 「ふれあいサロン」での昼食会も

「一人になって料理をする意欲がわなくて…」との声に、「食」を大切にしている生協として何かできないかと話し合い、内陸のこ〜び委員会の協力で「3行レシピ集」を作成・配布（5,500部）。また、「ふれあいサロン」では昼食会に取り組みました。



ふれあいサロンの昼食会で活用したり、陸前高田市の保健師さんからもほしいと希望されるなど、配布と活用が広がっています。

震災を風化させない取り組み

内陸では、震災を風化させない取り組みとして「被災地応援ツアー」や「被災地の現状を聴く会」（29企画1,200人参加）、手作りカードを贈る取り組み（2013年度は3回のべ1万人、3年間ではのべ3万人にプレゼント）などに取り組みました。2013年9月からは、毎月11日を「震災を忘れない日〜がんばろう！岩手 築こう未来」として、店舗で支援募金の呼びかけや復興応援商品のおすすめ活動に取り組みました。



「震災への関心が薄れつつある今こそ、震災を忘れず、地元の私たちが支援を継続していこう」との思いが、募金や商品利用の増加につながっています。

奥州市と“災害時協定”に調印

災害時、食料品や日用品などの必要物資をコープアテールイ（奥州市）を拠点として供給する「災害時における物資供給に関する協定」を、奥州市と2013年12月に締結。市町村との締結は、一関市に次ぎ2例目となりました。また、いわて生協が加盟する岩手県生協連は、岩手県と同様の協定を締結しています。



奥州市の小沢昌記市長（左）と、いわて生協理事長の飯塚明彦。

3年間で寄せられた「東日本大震災支援募金」 7.554万円

（2014年3月20日現在。日本生協連や全国の生協からの支援金を含む）

2011年5月に、2,000万円を岩手県へ義援金として贈呈。残りを「復興支援基金」として支援活動に活用しています。

※2013年度は、1,160万3,768円の募金が寄せられ、2,046万2,092円を支援活動で活用しました。

●3年間の「復興支援基金」活用状況（2014年3月20日現在）●

被災地でのふれあいサロン	2,274万	56円
バスボランティア・炊き出し	1,523万	3,002円
被災地でのお楽しみ企画	603万	609円
支援物資・買い物支援	647万	1,269円
被災地生協まつり・復興まつり	523万	6,345円
グループ活動補助	451万	9,980円
生産者・メーカー支援	268万	6,298円
その他（販売支援など）	494万	5,155円
計	6,786万	2,714円

10品目を開発・改善し、開発商品の供給高は12億8千万円に



アイコープ商品・アイスタイル商品は、できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内の工場で製造（県内メーカーと共同開発）している、いわて生協オリジナルの商品。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。東日本大震災後は特に「地場産品の利用を広げることで、岩手を元気にしよう」と取り組んできました。

2013年度は10品目を開発・改善し、アイコープ・アイスタイル商品全体の供給高は12億8千万円でした。要望が多かった「県産もめん豆腐」「県産さめごし豆腐」の供給を再開し、中止前以上のご利用をいただいています。

■2013年度のアイコープ・コープ商品実績
(2013年3月21日～2014年3月20日)

分類	部門供給高	アイコープ・アイスタイル商品供給高	その他コープ商品(日生協、コープ東北等)供給高	コープ商品構成比
農産(野菜)	24億5,647万円	3,117万円	—	1%
水産	38億2,635万円	1億6,138万円	5億2,727万円	18%
畜産	28億2,844万円	8,447万円	2億4,724万円	12%
日配	61億5,280万円	7億8,255万円	13億1,241万円	34%
米	5億5,147万円	1億 26万円	—	18%
食品類	26億1,214万円	9,971万円	9億1,064万円	39%
菓子	26億1,463万円	788万円	5億5,262万円	21%
酒	10億2,246万円	80万円	8,563万円	9%
トイレットリー	8億4,262万円	1,024万円	2億 168万円	25%
生活用品	3億4,573万円	169万円	4,570万円	14%
合計	232億5,311万円	12億8,013万円	38億8,319万円	22%

※日配は、朝配達牛乳除きの実績です。
※酒・生活用品は、共同購入除きの実績です。

商品開発・供給で
被災したメーカーを支援

2013年度は、被災したメーカーとの共同開発は「アイコープ産直真崎わかめ使用荳わかめ中華味」と「アイコープ産直真崎わかめ使用わかめの佃煮」の2品でした。いずれも、田老町漁協（宮古市）との産直真崎わかめを原料に使い、古須賀商店（宮古市）で製造。「わかめの佃煮」は計画以上のご利用があり、原料のひとつである岩泉産わさびが不足したため休止となりましたが、2014年7月に供給再開の予定です。

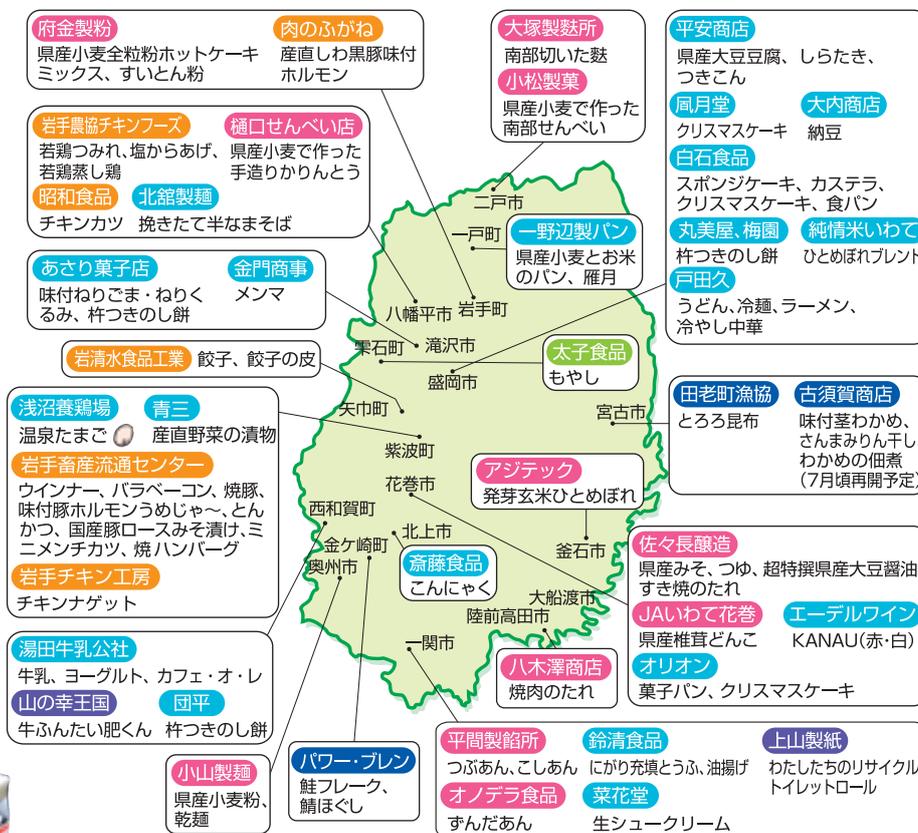


アイコープ産直真崎わかめ使用荳わかめ中華味



アイコープ産直真崎わかめ使用わかめの佃煮

■53社と139品目を共同開発 (2014年5月末現在、県外メーカー含む)



「地産地消フェスタ」に7万人が来場

2013年度も大震災からの「復興支援」をかね、各広域振興局の協力・参加を得て沿岸被災地から多数出店いただき、「地産地消フェスタ」を開催。ベルフ牧野林（滝沢市4回目）、コープアテルイ（奥州市6回目）、コープ一関コルザ（一関市9回目）、マリンコープドラ（宮古市4回目）の4会場にのべ256社・団体が出店、計7万人が来場しました。どの会場でも出店者の復興への頑張りが来場者に元気と感動を与え、商品の利用につながりました。



沿岸をはじめ地元岩手のおいしいものを求めて、多くの方が来場しました。

マリンコープドラ「復興商店」を継続

2012年6月にマリンコープドラ内に常設した「復興商店」を2013年度も継続。被災地のメーカーが製造する商品や福祉施設の商品、仮設住宅のグループなどの手作り品、復興支援団体の商品などを集めて供給しています。



マリンコープドラに常設している「復興商店」。

組合員が利用普及で応援

震災で大きな被害を受けたアイコープ漬魚のメーカー「佐勇水産（石巻市）」の復興応援を、一関コープの組合員が取り組みました。2013年10月、コープ一関コルザでの「復興支援・地産地消フェスタ」ではアイコープ漬魚の試食おすすめを行い、2日間で880切れを完売しました。また、「秋のコープのつどい」では試食を通して新商品開発に協力。「アイコープ目抜醤油麹漬・赤魚醤油麹漬」として、2014年5月に発売されました。



試食でおいしさを確かめていただき、利用をおすすめしました。

地域の特産品を普及する取り組み

「みやこうまいもの市」は、盛岡地域の3店舗（ベルフ仙北・ベルフ青山・ベルフ牧野林）で12団体（2012年度11団体）の参加で8回開催。「にしわが山の市場」はベルフ牧野林（滝沢市）で3回開催し、出店は2012年度の7団体から14団体に増えました。

また、県南地方の障がい者モノづくり施設（40施設）で構成する「あべじゃネット」と岩手県県南地方振興局、いわて生協が共催し、生産品の販売や情報発信を行う「あべじゃネットフェア」は7回開催し、11施設が参加しました。



いずれの企画も作り手が直接消費者（組合員）に商品をアピールできる場になっています。



「食品産業もったいない大賞」で受賞

バイオマス資源総合利用推進協議会による第1回「食品産業もったいない大賞」で、審査委員会審査委員長賞を受賞しました。岩手県産の食材を「地産地消」「産直」として積極的に開発・利用することで輸送・保管エネルギーを削減し、またプライベートブランド「アイコープ」に地産地消を取り入れることで地域振興にもつなげていることなどが評価されました。



表彰式には、環境事業推進室室長内野俊一が出席しました（後列左から2人目）。



県内32団体と産直提携し、供給高は25億3千万円に

いわて生協の 産直三原則

- 1 産地と生産者が明確であること
- 2 栽培、飼育方法が明確であること
- 3 組合員と生産者が交流できること

いわて生協 産直基準

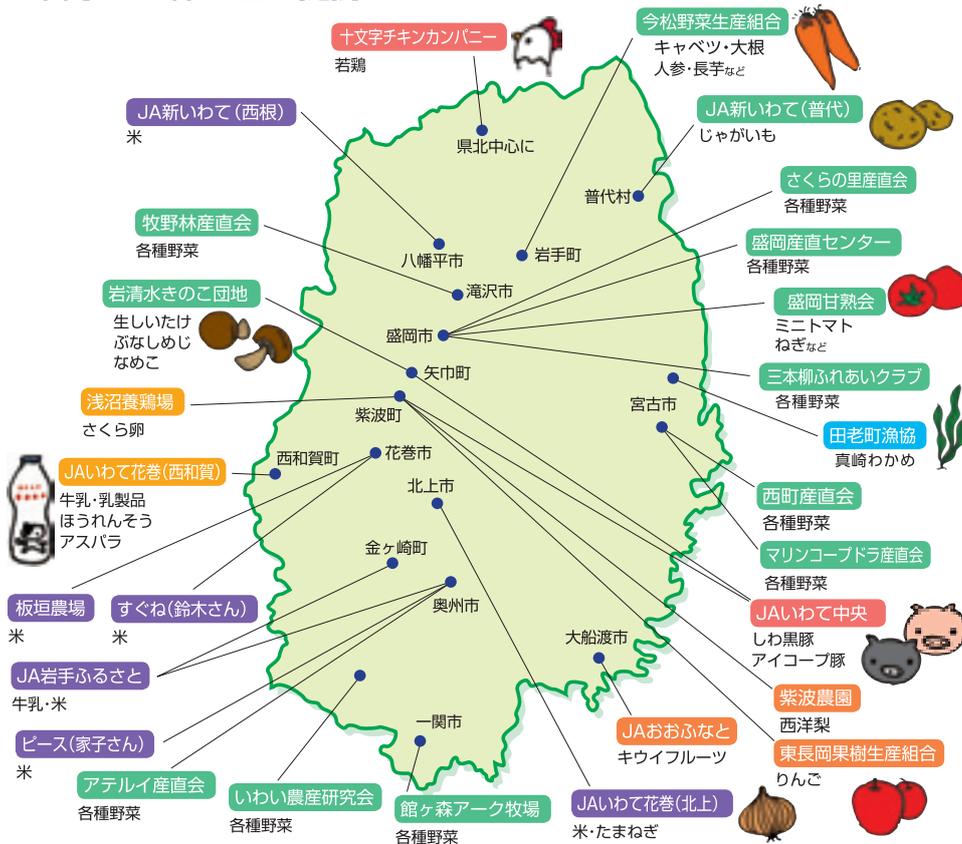
- 1 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- 2 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- 3 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- 4 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報を公開します。
- 5 生産方法などを記録し、定期的な点検・検査を行います。
- 6 後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。

2013年度の産直品実績 (2013年3月21日～2014年3月20日)

分類	部門供給高	産直品供給高	産直品構成比
①果物	12億9,116万円	4,301万円	3%
②野菜	24億5,647万円	5億9,532万円	24%
農産(①+②)	37億4,763万円	6億3,833万円	17%
③水産	38億2,635万円	5,018万円	1%
④畜産	28億2,844万円	7億5,867万円	27%
⑤日記	64億 513万円	8億2,164万円	13%
⑥米	5億5,147万円	2億6,545万円	48%
①～⑥合計	173億5,902万円	25億3,427万円	15%

※農産(果物・野菜)は、県内の産直品(顔とくらしの見える産直品)の実績です。
※日記は、朝配達牛乳含みの実績です。

県内32団体と産直提携(2014年5月時点)



産直野菜は「農薬使用基準」を定めています

排除農薬 使用禁止する14農薬	排除目標農薬 排除に向けて計画的に努力す農薬
NAC、ベンゾエピン、ジメトエート、2.4PA、ジネブ、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、カルベンダゾール、マラソン、クロロピクリン	DDVP、キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニューロン、アトラジン

「がんばろう！岩手 みんなで応援商品」

震災や放射能汚染の被害・影響を受けたり、飼料・燃料・資材の値上がりの中でがんばっている県内の生産者・メーカーを応援しようという、組合員の取り組み「がんばろう！岩手 みんなで応援商品」も3年目となりました。各コープ（地域）で商品を設定し、産地見学や学習会・交流会、店舗「産直収穫祭」でのおすすめ活動、レシピコンテストなど、一年を通して積極的に取り組みました。

「秋のコープのつどい」では、そうした成果をいかして学習資料の作成、レシピ提案や試食などを行い、商品のよさを伝えて利用を呼びかけました。



このヘコープでは、「秋のコープのつどい」で、「産直真崎わかめ」と市販わかめの水戻し比較を行いました。

豪雨被害に遭った産直生産者へお見舞い

2013年度は、豪雨や台風など自然災害による被害が産直提携先でも発生。特に被害の大きかった産直アイコープ豚の生産者お一人（紫波町）と今松野菜生産組合（岩手町）にお見舞金をお届けしました。また、今松野菜生産組合には、その生産物を「みんなで応援商品」に設定して取り組んでいた宮古コープの組合員から応援メッセージとタオルが贈られました。



豪雨被害にあった「産直アイコープ豚」生産者の阿部さん（右）へ、いわて生協理事 長飯塚明彦がお見舞金を手渡しました。



「今回のような被害に直面するたびに、野菜生産のきびしさ・難しさを痛感するとともに、『生協産直の生産者でよかった』と心から思います」と、今松野菜生産組合代表の今松貢さん。

東長岡果樹生産組合との産直は30周年に

「ひょうりりんご」の取り扱いから始まった東長岡果樹生産組合（紫波町）との産直は30周年となりました。これを記念し、盛岡南コープの組合員のべ89人が、摘花から収穫まで一年を通して作業を体験。秋には店舗でのおすすめ活動に取り組みました。また、記念のりんごジュース（2種類）とりんごパイを限定発売しました。



5月には摘花作業を体験し、たくさんの手間をかけてりんごができることを実感しました。



公開安全確認会&業務確認会を実施

産直品の栽培方法や飼育方法など、生産の約束事が守られていることを組合員も一緒に確認する「公開安全確認会」。11年目となった2013年度も32産地・提携先で、組合員159人が参加して行われました。初めて参加する組合員が65人（全体の約4割）で、生協産直と生産者の努力への理解が広がりました。また、「秋のコープのつどい」では、この参加者が産地のようすや商品のよさを伝えるなどの役割を果たしました。

「業務確認会」は9事業所で、90人の組合員・生産者が参加して行われ、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを確認していただきました。



岩清水きこの団地（矢巾町）の公開安全確認会には、けせんコープの組合員と共同購入せんとセンター長が参加しました。



産直若鶏の公開安全確認会には久慈コープの組合員が参加し、鶏舎内をライブ中継で確認しました。

消費税増税反対！「私の声はがき」 1万5千枚を国会へ！

「消費税増税は復興を妨げる」として、「消費税増税をやめさせる被災3県アクション」「くらしを考えるネットワークいわて」と協同し、消費税増税反対運動に取り組みました。増税に反対する「声はがき」は5,230枚（県内8千枚、3県で1万5千枚）を集め、2013年6月の国会要請行動で切実な声を届けました。



いわて生協からは5人の代表が参加し、県と東北比例選出の国会議員にお会いして要請しました。

また、消費税増税の問題点について「初夏のコープのつどい」などで学習（9,522人）しました。そのほか「くらしを考えるネットワークいわて」として参議院選挙前に「政策を聞く会」開催、9月には、他団体とともに「9・22消費税大増税ストップ岩手集会」（300人参加）を開催するなど、反対の世論を高める運動にも取り組みました。しかし、政府は、私たちのこうした声を無視し2014年4月から消費税を増税しました。2015年10月からの消費税10%への増税を止めさせるために引き続き取り組みます。

「復興に水を差す消費税増税反対」「弱者ほど負担が重い消費税反対！」と盛岡市中心部をアピール行進しました。



2014年4月からは、毎月1日を「消費税増税に反対する日」といわて生協は地域と暮らしを守るために、消費税増税に反対し続けます」として取り組んでいます。

TPP交渉参加反対運動を諸団体と推進

政府のTPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加の正式表明を受けて、食の安全、食料・農林漁業、地域を守る立場から、反対運動に取り組みました。「秋のコープのつどい」（5,516人参加）では、TPPの問題点を学習し、国会請願署名に取り組みました。短期間で目標を超える5万298筆の署名を集め、2013年11月末に国会請願を行い提出しました。また、「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」「いわて食・農ネット」といっしょに学習会や街直活動に取り組みました。



「秋のコープのつどい」では、紙芝居で学習し、署名を呼びかけました。



「TPP断固反対！岩手県総決起集会」は、半年の間に2回（2013年12月、2014年5月）開催しました。

「日本がTPPに参加しないことを求める署名」は、6人の議員が紹介議員となり、国会に提出しました。



16市町村で「福祉灯油」を実現

過去2番目に高い灯油価格を受けて、岩手県や岩手県議会に緊急対策を求める請願・要請を行ったほか、市町村長との懇談会でも「福祉灯油」実施を要請しました。こうした取り組みによって、沿岸12市町村を含む16市町村で「福祉灯油」を実現できました。



2013年9月、「福祉灯油」の実施を求め、岩手県へ要請しました。

他団体と力を合わせて 原発廃止を求める取り組み

脱原発・自然エネルギーへの転換を求めて、他団体と一っしょに「さようなら原発 岩手県集会」(400人参加)に取り組みました。また、東北電力の電気料金引き上げ問題については、反対の立場で意見交換会・公聴会(45人参加)や「国民の声」提出(92人)に取り組みました。政府は「エネルギー基本計画」で原発を「重要なベースロード(基幹)電源」と位置づけるなど、原発回帰路線に転換しており、引き続き運動に取り組んでいきます。



いわて生協も実行委員会に参加し、「さようなら原発 岩手県集会」を開催(2013年6月15日)。



しいたけ農家が、風評被害について必死の訴えをしました。



集会終了後は、盛岡市内中心部を元モ
行進

15市町村で首長懇談会を開催

住みよい地域づくりをめざし、15市町村で首長懇談会を開催。「高齢者の生活支援」「福祉灯油」をおもなテーマに懇談しました。



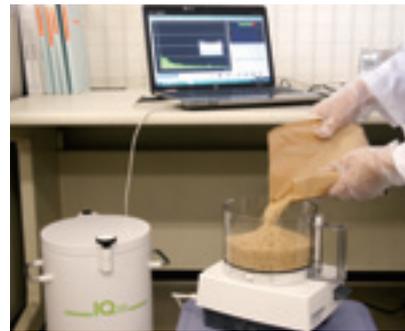
2014年1月30日、北上市との懇談会。北上市長に、いわて生協からの要望・要請書をお渡ししました。

2013年度首長懇談会を行った自治体(実施順)

二戸市、花巻市、大槌町、住田町、釜石市、盛岡市、滝沢市、九戸村、陸前高田市、大船渡市、一関市、八幡平市、北上市、久慈市、矢巾町

放射性物質の検査を拡大

2013年度は、放射性物質の自主検査を拡大(2012年度187品目⇒2013年度201品目)しました。アイコー商品・アイススタイル商品23品目、産直品102品目、市場流通生鮮品で取り扱い量の多いもの76品目を検査し、検出は1品目のみで基準値未満でした。これらの検査結果については、ホームページ、共同購入・店舗でお知らせしました。この自主モニタリング検査は、2014年度は、340品目にさらに拡大して実施する計画です。



2012年8月、いわて生協に検査機器を導入。自前で検査を行っています。

食事調査の継続や空間線量計貸し出しも

組合員の要望にこたえ、岩手県の食品検査や空間放射線量の状況についてわかりやすく情報提供しました。さらに、日本生協連による「食事に含まれる放射性物質の摂取量調査」を継続し(1回・岩手県からは20世帯)、この3年間5回の調査(岩手県からは70世帯)では、いずれも放射性セシウムは「検出限界値(1ベクレル/kg)未満」でした。空間線量計の貸し出しも引き続き行い、2013年度は9人の利用がありました。

放射性物質問題 Q&A

放射性物質に関してこれまでに寄せられた質問にお答えします。

Q 県内の空間放射線量や農産物・畜産物の放射性物質濃度はどうなっていますか?
A 空間放射線量は、以下のとおりです。農産物の放射性物質濃度は、以下のとおりです。...

Q 福島第一原発の汚染水漏れの問題で、汚染水に含まれている放射性物質はトリウムがふくまれているとされています。トリウムの性質や健康被害は?
A トリウムは、自然界に広く存在する放射性物質で、健康被害はほとんどありません。...

Q 橋本、平ノコから放射性セシウムが検出されたというニュースをよく聞きますが、今年はどうですか?
A 今年も、橋本、平ノコから放射性セシウムが検出されました。...

Q 全国の食品の放射性物質濃度はどうなっていますか?
A 全国の食品の放射性物質濃度は、以下のとおりです。...

2013年度いわて生協モニタリング自主検査の結果

品名	検出	検出濃度
...

共同購入では、「あい・ぱーく」でお知らせしました。

「コープくらしの助け合いの会」 年間約2万3千時間を超える活動

「困ったときはお互いさま」の気持ちをもとに1992年に発足した「コープくらしの助け合いの会」は、有償ボランティアの会員組織です。高齢者、妊娠中や産前産後の方、障がいを持っている方などを対象に、家事・生活援助を行っています。会員数は県内10支部で1,241人と増え、活動時間も2万3,990時間（2012年度1,224人・2万2,082時間）に増えました。また、2013年度も被災した会員への支援として、年間費免除（82人）、活動費免除（37回）を行いました。



掃除や洗濯、調理などの家事援助のほか、犬の散歩などの手伝いも。

「ふれあいお茶っこ会」は144回 「ふれあいサロン」は24回開催

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と協同で開催するミニデイサービスで1999年にスタート。2013年度は、盛岡地域の生協店舗や公民館など15会場で144回開催し、のべ1,866人が参加しました。1回300円の参加費で血圧測定、おしゃべりやレクリエーション、昼食など、楽しい時間を過ごしています。

「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄ってお茶を飲んでおしゃべりしたり、ちょっと一息つける場として盛岡3会場で24回開催し、259人が参加しました。（被災地での「ふれあいサロン」については本誌4ページをご覧ください。）



ベルフ青山でのふれあいお茶っこ会。手でくいで作る帽子に取り組みみなさん。



納得のいく「七夕カード」の出来栄えに、にっこり。

「ハピママコープ」プレ企画7回に58組 「子育てひろば」には309組の親子が参加

2014年度から、第7次中期計画にそって子育て世代（特に乳幼児を持つママ）の願いにこたえた活動を広げていくために計画づくりを行いました。その計画のひとつとしてママたちの要望にそった楽しい企画「ハピママコープ」のおためし企画を7回開催し、58組134人が参加しました。

また、乳幼児を持つママたちが、子どもといっしょにリラックスできる親子の遊び場「子育てひろば」には、309組659人が参加しました。2014年度からは内容を充実する計画です。

「ハピママコープ」は「親子たいそう教室」「ネイルケアとハンドマッサージ」などのおためし企画を開催し、内容も好評でした。



「子育てひろば」は「ホッとできる」「ママどうしのおしゃべりが楽しい」と好評です。

■2014年度から「ハピママコープ」「子育てひろば」は定期開催

会場	曜日	第1週	第2週	第3週	第4週
コープ関コルザ	火	子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ
ベルフまつぞの		ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば
ベルフ青山	水	子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ
ベルフ仙北	木	ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば
ベルフ八幡平		子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ
ベルフ山岸	金	子育てひろば	ハピママコープ	子育てひろば	ハピママコープ

子ども農業体験「ポラン農業小学校」

「農業体験を通じて、子どもたちに作物をつくる喜びや大変さ、自然のすばらしさを体験してほしい」と、JAいわて花巻と協同して1999年から開催。西和賀の自然の中でたくさん遊び、農作物を種から育て、収穫し、食べるまでの体験を行っています。2013年度は28人（2012年度は25人）が参加し、一年を通して貴重な体験をしました。



田植え、草取り、生き物観察、稲刈りと米作りを体験したほか、みそ作りにも挑戦。

ユニセフ募金は664万円 24年間の累計では1億 716万円に

2013年度は、「フィリピン台風被害」に対し震災後初となる緊急支援募金に取り組み、ユニセフ募金額は664万5,491円（2012年度243万7,202円）に増え、24年間の累計では、1億716万円となりました。

12月の「ハンド・イン・ハンド募金」は、20会場でボランティア563人が参加。そのうち440人は、地域の15小中学校・団体の子どもたちで、元気よく募金を呼びかけました。



岩手郡コープの「ハンド・イン・ハンド」。

■2013年度ユニセフ募金

フィリピン台風被害緊急募金	391万5,543円
ファミリー募金（お年玉募金なども含む）	201万5,717円
ハンド・イン・ハンド募金	66万2,597円
ペットボトルキャップ募金	5万1,634円
計	664万5,491円

各コープで「ピースアクション」

地域での「ピースアクション」は、13コープで24企画開催され741人が参加（2012年度10コープ19企画537人）。親子平和映画会などで平和の大切さを考えあいました。また、広島市での日本生協連主催の「ピースアクションinヒロシマ」に、4コープから9人の代表を派遣しました。



毎年、組合員の代表が原爆投下の地ヒロシマを訪れ、被爆の真相を学んでいます。

「戦争ができる国づくり」に 反対する取り組み

特定秘密保護法など「戦争ができる国づくり」にむけた動きが加速する中で、こうした動きに反対する理事会声明を2014年1月にあげたほか、「平和憲法9条をまもる岩手の会」など多くの団体といっしょに集会にも取り組みました。



県内91団体からなる実行委員会が主催した「特定秘密保護法廃止へ! 2・8岩手県民集会」には400人が参加。集会後はアピール行進も。

「みやこ映画生協支援募金」100万円贈呈

「沿岸被災地の映画の灯を守ろう」と、2013年3月15日から1か月間、組合員と職員に募金を呼びかけ、94万6,609円が寄せられました。これにいわて生協分を加えた100万円を贈呈。デジタル映写機購入にあてられました。



前みやこ映画生協理事長の故小野寺正光さん（中央）に、いわて生協理事長飯塚明彦（左）と同副理事長内澤祥子より募金を贈呈しました。

より多くの組合員の参加で運営

「初夏のコープのつどい」は2,106か所で7,793人が参加、「秋のコープのつどい」は402会場に5,516人が参加、「お茶会」は1,637か所での開催でした。計画づくりの場である「コープ懇談会」には2,126人が参加し、こうした話し合いの場への組合員参加はのべ2万808人となり、運営や計画づくりに多くの意見・要望をいやすことができました。



「コープ懇談会」ではグループに分かれて、生協への期待や意見を出し合いました。

店舗事業

4年ぶりの新店「ベルフ八幡平」オープン

「第7次中期計画」初年度の計画に掲げた“八幡平市への出店”を組合員といっしょに取り組み、11月に「ベルフ八幡平」をオープンしました。水産の魚種の豊富さと鮮度、焼きたてパンなどが好評で、2014年5月11日には八幡平市の組合員が5千人となりました。



オープン初日、多数の方がつめかけました。



「焼きたてパンは種類が多く、おいし」と好評です。

高齢者への買い物支援を強化

店舗のユニバーサルサービス向上を目的に、店舗サービス部門のマネジャーやトレーナーなど14人が介助技術資格「サービス介助士(サービス・ケア・アテンダント)」の検定試験に挑戦。3か月間の通信教育を経て講義と実習、筆記試験を受け全員が合格しました。

2012年度にコープアテルイ(奥州市)で初めて導入した「ルーペ付カート」を、2013年度は全店に拡大、「表示がとても見やすい」と好評です。また、ベルフ八幡平では「軽量カート」や「カートインスキャナー」を導入。「重いカゴを上げなくていいので助かる」と喜ばれています。



「サービス介助士 検定試験では、車椅子を押す実習も。」



「サービス介助士がいるお店であることをポスター掲示しています。」

お店の環境活動を学ぶ「エコエコ探検隊」

生協のお店のエコな取り組みを子どもたちが楽しく学ぶ「エコエコ探検隊」は4回行われ、86人が参加しました。リサイクル回収や節電、レジ袋節約、生ごみ堆肥化、地場野菜の取り扱いなど多彩な取り組みを学んだほか、ミニエコバッグ作りを行った企画もありました。



ベルフ牧野林の「エコエコ探検隊」では、太陽光発電について学びました。

リサイクル活動の拠点

いわて生協の店舗は回収品目が多く、組合員のリサイクル活動の拠点となっています。2013年度の年間回収量総計は3,312トンでした。中でもベルフ仙北の古紙回収システム「エコチェン」の利用は188トン(前年同期比139%)と、好評でした。2014年度はこの「エコチェン」設置店舗を拡大する計画です。



リサイクル活動は、子どもの身近な環境教育にもなります。

商品や店舗運営に関する「組合員の声」集約

お店の売り場などで組合員から出された声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2013年度は9,892件が寄せられました。ベルフ八幡平をオープンしたことにより全体的に数が増えました。

区分	2013年度	2012年度	増減
おほめ・感謝の声	1,373件	917件	456件
意見・要望	2,417件	1,791件	626件
お問い合わせ	5,176件	5,646件	-470件
商品・運営に関する苦情	800件	617件	183件
その他	126件	162件	-36件
計	9,892件	9,133件	759件

共同購入事業

夕食宅配サービス事業をスタート

要望の高かった夕食宅配サービス事業（夕食の弁当をお届け）を6月からスタート。実施地域を順次拡大し、2013年度末（2014年3月20日）には、盛岡・滝沢・花巻・北上・奥州・一関市で332人・402食のご利用となりました。利用者の85%が60代以上で、「とても助かる」「声を聴いてメニューを改善してくれてうれしい」などの声が寄せられました。

また、土曜日・日曜日・祝日は配達を休むため、連休となる場合は、冷凍弁当や冷凍おかずなどをご案内しています。



専用車両でお届けします。



「配達スタッフに会えるのが楽しみ」とのお声も。



お弁当コースの1例



おかずコースの1例

個配優遇制度をさらに拡充

個配優遇制度は、赤ちゃんがいる方や高齢者、障がいのある方などを対象に、個配の配達手数料を1回93円（通常223円・いずれも税抜価格）にするものです。「子育てサポート値引き」については、2013年度から対象年齢を3歳から6歳に引き上げたことで1,788人が加入し、登録者は4,808人となりました。また、下期からは「復興支援サービス」（復興が実現できるまで）も開始。沿岸を中心に863人増え、登録者は5,471人となりました。

優遇対象者（配達料金が1回93円（税抜）に）	利用人数	割合
母子手帳が発行されてから満6歳までの子どもがいる方	4,808人	12.1%
70歳以上の単身の方、または夫婦世帯で一方が70歳以上	7,518人	18.9%
障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	3,722人	9.4%
介護認定を受けている方がいるご家庭	1,428人	3.6%
宮古市田老、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の方	5,471人	13.8%
計	2万2,947人	57.8%

13市町村と見守り協定締結

共同購入や夕食宅配サービスの配達時などに高齢者の異変に気づいた場合、各自治体が指定する窓口へ連絡を行う「高齢者見守り活動」は、13市町村と協定を結びました。行政の窓口への連絡には至りませんでしたが、「共同購入配達中に道路に倒れている方を発見し救急車を呼んだ」「夕食弁当お届け時に体調を悪くして助けを求めている利用者さんを介抱した」などの事例があり、それぞれのご家族からも感謝されました。



2013年10月に滝沢市と調印しました。



盛岡北センターの夕食宅配サービス配達スタッフです。

協定を結んだ市町村（2013年5月末現在）

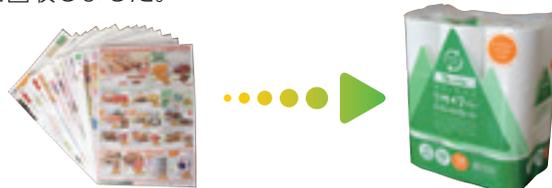
盛岡市、滝沢市、紫波町、花巻市、遠野市、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町、久慈市、洋野町、普代村、野田村

「コープわくわく便」をスタート

ひとり暮らしのお子さんや離れて暮らすご両親に、お気に入りの共同購入商品を簡単・お得に送れる「コープわくわく便」を2014年2月にスタートしました。冷凍品と常温品を送ることができ、箱詰めは生協が代行。専用注文用紙に記入して提出するだけで、宅配便で全国各地へ配達され、お支払いはいつもの共同購入代金といっしょに口座振替です。「自宅で食べなれていた商品をラクに子どもに送ることができる」と喜ばれています。

環境負荷低減の取り組み

「毎週届くチラシがもったいない」との声を受けて1997年に開始した、共同購入チラシの回収リサイクル。回収したチラシは「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」（一関市・上山製紙製造）の原料になっています。2013年度は2,843トン（前年比110.9%）を回収しました。



共済事業

共済は1万件の加入で保有10万4千件に

改善した《あいびらす》の提案・普及と、イメージキャラクター“コーすけ”の活用などで子育て世代の認知度が上がったことなども反映し、年間の新規加入が引き続き1万件を超え、保有件数は10万3,916件となりました。店舗共済カウンター担当者のLPA（ライフプランアドバイザー）の資格取得をすすめ、新店を除く4店舗すべてに有資格者を配置することができました。



2013年度は、コープ共済のキャラクター「コーすけ」の着ぐるみも登場。普及に一役かっています。

顧客満足度1位を獲得

コープ共済の加入は全国で800万件に広がり、2013年度は「JCSI（日本版顧客満足度指数）第4回調査の生命保険部門」で第1位を獲得しました。

介護・福祉事業

訪問介護のサービス提供時間が約1万6千時間に

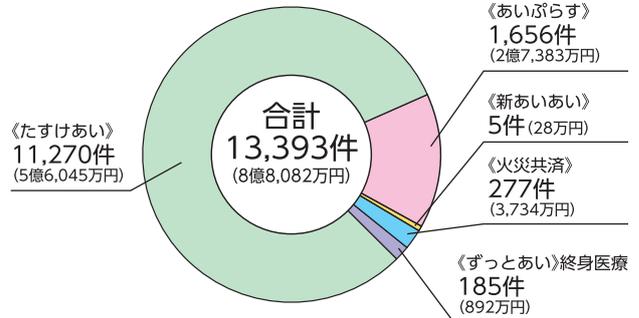
2013年度はケアマネジャーの欠員から、ケアプラン提供人数を減らさざるを得ませんでした。訪問介護のサービス提供時間は1万5,780時間と、前年から大きく増えました（前年比114%）。

また、サービス付高齢者向け住宅の開発検討をすすめたほか、介護職員の雇用と継続的な育成を促進するため、福祉事業部エリア正規職員制度を導入しました。

■2013年度の利用実績

事業	利用者数	前年比
居宅介護支援(ケアプラン)	2,446人	87%
訪問介護	1,151人	104%
福祉用具貸与	2,383人	94%

■共済金・見舞金の支払件数（2013年度）



■共済保有件数（2014年3月20日現在）

種類	2013年度	2012年度	前年比
《たすけあい》	6万7,982件	6万8,787件	98.8%
《あいびらす》	2万7,666件	2万6,633件	103.9%
《ずっとあい》終身生命	573件	443件	129.3%
《ずっとあい》終身医療	2,192件	1,513件	144.9%
《火災共済》	5,101件	5,037件	101.3%
《新あいあい》	393件	388件	101.3%
《あいあい》※募集終了	9件	9件	100.0%
合計	10万3,916件	10万2,810件	101.1%

くらしの見直しセミナーが好評

福祉分野のいわて生協の部署や組合員の委員会、関係団体でつくる「あい委員会」は活動の交流をすすめ、福祉講演会（くらしの見直しセミナー）を2回開催し、いずれも好評でした。

また、いわて生協の「くらし支援」の活動と事業を紹介する「困った時のお助けブック」（盛岡地域が対象）を、新しい事業「夕食宅配サービス」などを加え、より見やすく・わかりやすく改訂しました。



福祉講演会の一つは「終のすみか」と医療・「困った時のお助けブック」は店舗にも配置しています。

葬祭事業

6 番目の会館 「セリオホール牧野林」オープン

生協の葬祭事業は、「納得できる適正価格で」「送る心を大切にしたい」という組合員の願いから始まりました。「第7次中期計画」では、高齢化が進む中で要望が高まっているセリオホール（葬祭会館）について、2館の建設を掲げました。その1館目として、6月に滝沢市に「セリオホール牧野林」をオープン。6館合計の利用件数は954件となりました。次の会館「セリオホール仙北」は2014年秋の開設をめざし、準備をすすめています。

また、葬祭専任職の新雇用制度を導入し、人材育成のしくみの整備もすすめました。



セリオホール牧野林は木造建築、太陽光発電、全館LED照明と環境配慮をより強めた会館です。



セリオホール牧野林内覧会は、2日間で712人が来場しました。

2013年度の利用実績

セリオホール中野	263件
セリオホールみたけ	212件
セリオホール緑が丘	121件
セリオホール牧野林	45件
セリオホールみやこ	202件
セリオホール釜石	111件
合計	954件

住まいと暮らしのサービス事業

提携が増え、役立ち度がアップ

住まいと暮らしのサービスセンターは、おもに地元の業者と提携してサービスを提供しています。2013年度は、「ゼンリン（住宅地図）」「アート不動産」などと新たに提携しました。

組合員カード提示優待の提携である「入浴施設」や「眼鏡市場」が引き続き好評なほか、「引越し」「補聴器」が多く利用されました。

2014年度からは「コープ東北サンネット事業連合」統一の事業となり、さらにサービスの幅が広がっています。



コープ東北サービス統一のカタログ「コープバー」。

主なサービス内容

- エクステリア全般
- エコガラス全般
- 配管クリーニング
- ガス器具、石油給湯器
- シロアリ対策
- 太陽光発電
- 引越し、不動産
- 車検、タイヤ
- めがね、補聴器
- ストープ分解掃除
- ピアノ調律
- 家電全般
- 住宅地図

南昌荘の入園者数、1万3千人を超える

南昌荘は、盛岡市「保護庭園」「保存建造物」の指定を受けており、いわて生協の10周年記念事業として2000年に一般公開をスタート。以来、多くの市民や組合員の安らぎの場所として、また様々な催し物の会場として利用され、2013年度は1万3,468人（前年比113%）が入園。累計入園者数は23万7,681人となっています。

2013年度は、秋の紅葉の庭園ライトアップや、自主企画のクリスマスやひなまつりへの被災者招待を継続し好評でした。

- 休館日／月・火曜日 年末年始
- 開館時間／10時～17時（12月～3月は16時）
- 入園料／大人200円 小・中学生100円（税込）

明治18年頃、盛岡出身の実業家瀬川安五郎の邸宅として建てられました。保存を望む多くの声に応えて、いわて生協が保有、維持管理と公開を行っています。

